



中国山地の低温条件を利用した高品質なサツマイモ栽培技術の開発

生物資源科学部 助教 足立 文彦

サツマイモは多用途で災害にも強い作物です。しかし近年、温暖な産地での糖度低下が問題となっています。これは塊根肥大期にあたる8月の気温上昇が大きく関係している可能性があります。そこで、夏の気温が東北地方と同程度の低温条件となる島根県内の中国山地の標高を利用して、調理後に甘いサツマイモが収穫できる立地条件を明らかにしてきました。

サツマイモ糖度の向上には、デンプン含量、酵素活性の増加、デンプンの糊化温度の低下などの要因が複雑に関連しますが、栽培温度が 1°C 低下することで糖度が約 1.2 度上昇することがわかりました。サツマイモに見られるデンプン特性の変化は、イネ、ムギ、ジャガイモなどの主要なデンプン作物に共通した現象です。温暖化による品質悪化に対応できる中山間地の有利性について、栽培検討会のような生産者が集まる場においても学生とともに参加し、日頃の教育・研究成果の普及に努めています。

